

1. 実証の背景・目的

人工林資源が利用期を迎え主伐の増加が見込まれる中、伐採後の再造林を確実に行う必要があり、そのためには、造林を担う労働力の確保が課題となっています。

この課題の解決に向け、植栽適期が長いとされているコンテナ苗を活用することで労務の分散による労働力の確保を目的に、空知管内の一般民有林に実証林を設定しました。実証林では裸苗の植栽期間外にコンテナ苗を植栽し、植栽時期の違いによる成長比較と活着状況等を検証したので報告します。

2. 実証林の概要と調査内容

【実証林概要】

- 場所：夕張郡由仁町伏見
- 所有者：南空知森林組合
- 面積：0.24ha (0.08ha×3区画)
- 樹種：カラマツコンテナ苗 (1号苗・2000本/ha)

【調査内容】

- コンテナ苗を6・7・8月に160本ずつ植栽
- 苗長・根元径・活着・諸被害を3年間 (R2～4年度) 調査



試験地全景写真

3. 調査結果・考察

(1) 調査結果

調査区	植栽日	活着率 (R2)	平均伸長量 (R4)	被害率 (R4)	枯損率 (R4)
A区	R2. 6. 27	◎99%	◎118 cm	◎11%	◎26%
B区	R2. 7. 18	△90%	○111 cm	○16%	○33%
C区	R2. 8. 27	○98%	△ 66 cm	△17%	△48%

(2) 考察

- 【活着率】全区で90%以上が活着。特にA区は99%が活着するなど、植栽適期の長さが実証。最も低いB区は植栽時に降水量が極端に少なく、土壤乾燥が要因と推測されるが90%以上活着。
- 【成長】伸長量は全区平均98cmで、低いC区が66cm、高いA区は118cmであり、良好に成長。低いC区は、時期が最も遅い8月植栽のため、他区より根の発達が遅れたと推測。
- 【諸被害】全区でエゾシカ・ウサギ・ネズミの順で獣害が発生。被害の程度に比例して枯損も増加。コンテナ苗は裸苗と比べ苗木が小さく着葉量も少ないことから獣害被害の影響を受けやすいと推測。C区は約半数が枯死、他区に比べ湿潤な土地が影響と推測。

(3) まとめ

- 従来の裸苗の植栽期間は6月上旬までですが、コンテナ苗は6月中旬以降に植栽しても活着や成長に問題がなく、植栽時期を延長するなどして労務を分散できることが実証されました。
- しかしながら、根鉢があるコンテナ苗でも、根を乾燥させないなどの十分な取扱いや獣害対策などが必要です。

4. 今後の展開

今回は空知南部地域における検証結果ですが、北部地域は更に気象条件が厳しく、植栽時期が晩秋に集中していることから、令和5年度に北部地域の深川市で実証林を設定し検証を始めました。

今後は空知管内全域で安心してコンテナ苗を活用できるよう、研修会等を通して市町・森林組合・林業事業体等の関係機関へ成果を幅広く普及し、コンテナ苗の利用拡大に向けた取組を一層進めていきます。